HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アニメツーリズムのこれまでとこれから 第2部:声優・福原香織さんと考える「世界に広がる声のお仕事」（座談会録）
Author(s)	山村, 高淑//編; 板倉, 篤史//編; 福原, 香織 他
Description	研究座談会「アニメツーリズムのこれまでとこれからリモート研究会」（主催：北海道大学観光学高等研究センター）.「『声のお仕事』が変える観光まちづくり編」.2024年11月27日13時～14時20分. オンライン開催.
Issue Date	2025-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94262
Type	other
File Information	Anime tourism seminar PART02 final.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

アニメツーリズムのこれまでとこれから
第２部:

声優・福原香織さんと考える「世界に広がる声のお仕事」（座談会録）

福原香織
板倉篤史
山村高淑
島田邦弘
張慶在
小新井涼

山村高淑・板倉篤史 編

2025年3月
北海道大学観光学高等研究センター

cats
Center for Advanced Tourism Studies
HOKKAIDO UNIVERSITY
北海道大学 観光学高等研究センター

CTRUs Contents Tourism Research Updates
コンテンツツーリズム研究チーム

アニメツーリズムのこれまでとこれから　第２部：

声優・福原香織さんと考える「世界に広がる声のお仕事」（座談会録）

【登壇者】

福原香織（株式会社ブライトイデア・声優）
板倉篤史（株式会社ブライトイデア・チーフマネージャー）
山村高淑（北海道大学・教授）
島田邦弘（埼玉県上里町・副町長）
張慶在　（広島大学・准教授）
小新井涼（アニメコラムニスト）

本稿は、2024 年 11 月 27 日 13 時から 14 時 20 分にかけてオンラインで開催された研究座談会「アニメツーリズムのこれまでとこれからリモート研究会」における「世界に広がる『声のお仕事』編」の内容を文字化し、座談会登壇者が確認・加筆修正したうえで、座談会再録として公開するものです。

1.　国際的なイベントでの経験

良い意味で海外でもオタクはオタクでした！

山村

ここからは、国際的な観点からお話しを伺っていきたいと思います。

日本のコンテンツが国境を越えてますます消費されるようになり、声優さんとしても国際的なお仕事が増えているのではと思います。そうした国際的なお仕事で感じられたことがあればお聞かせください。

福原

台湾に 2 回、アメリカに 1 回、お仕事で行きました。みなさん日本語が上手で、サイン会の時は日本語で話しかけてくださる方が多かったです。どうやって日本語を覚えたか聞くと、アニメを見ながら覚えた、という方がほとんどでした。イベント中に、自分が出演して

いるアニメの試写会もあったのですが、日本的ジョークや、台詞の間の取り方にも、客席から笑い声が聞こえたので、ファンの方の日本語スキルがすごいなぁと思いました。印象的だったのは、日本でしか売っていないような私の歌の CD やアニメのグッズを持っている方もたくさんいらっしゃったことです。「どこで買ったの？」と聞くと「Amazon で買った！」と。Amazon、海を越えてもなんでも買えるし、なんでも届くんだな……！とびっくりしました。普段は日本で仕事をしているので、海外のファンの方に『らき☆すた』大好きです！」「つかさちゃんが１番好きです！」「かおりん頑張ってください！」など言っていただくとなんだか不思議な気持ちになりましたが、自分の出演している作品や自分の声が、自分の知らない所でこんなにたくさんの方に届いていたんだと思うと、この仕事をやってよかったと、心から思いました。

島田

日本と海外のアニメファンの違いを感じることはありましたか？

福原

特にないです！　良い意味で海外でもオタクはオタクでした！　ただ、海外の方が自分を表現してる人が多い印象ですね。

アメリカでのファンとの食事会は斬新すぎました！

小新井

日本のイベントと海外のイベントとの違いで、何か感じられた点、例えばファンとの距離感など、はありましたか。

福原

たまたまそのイベントがそうだったのかも知れないのですが、アメリカでのイベントが「大統領のスケジュールか！」ってくらい忙しくて（笑）。ライブ、サイン会、生放送、トークイベント、試写会、ファンと食事会、などなど……。観光など全く行けないくらい忙しかったです。ファンとの食事会は斬新すぎました！　抽選（？）で選ばれた１０人くらいとご飯を食べながら雑談。言葉の壁もみんなで楽しめちゃうくらい、ファンの方々はマナーが良くって紳士でした。

小新井

インターネットを介した海外のアニメファンとの接触機会も増えてきているかと思います。SNS などでの海外ファンのコメントやリアクションなどで印象に残っていることはあり

ますか？

福原

SHOWROOM で配信している時に海外の方が普通に参加しているのがおもしろかったです。韓国、インドネシア、アメリカあたりの方々は時々来てましたので、リアルタイムで会話したりしていました。今時のコミュニケーションですよね！

2. 『らき☆すた』韓国語吹き替えバージョンを視聴して

結構私の「つかさ」の感じに寄せてきてますね！

張

ありがとうございます。「自分の声が、自分の知らない所でたくさんの方に届いていた」という言葉、心に響きました。実は、私のほうで、福原さんにご覧いただきたい動画を用意しているんです。『らき☆すた』が韓国で放送された際の、韓国語吹き替え版です。「バルサミコ酢～」のところを、是非福原さんにご覧いただければと（笑）。

福原

見たーい（笑）！

張

私は韓国出身なのですが、最近は韓国でも、アニメを見る際には、オリジナル音声＋字幕という形で見ることが定着しています。ただ、『らき☆すた』放送当時は、まだ字幕版と吹替版が混在していた時代なんですね。一般に日本アニメの韓国語吹き替え版は、作品によって評価がまちまち――吹き替え版の評判が良くないことのほうが多い――なのですが、その中で『らき☆すた』の韓国語吹き替え版は、吹き替えクォリティーが高いことで有名なんです（笑）。福原さんが担当されたつかさが、福原さんの声ではない外国語で話している様子をご覧いただき、オリジナルの担当声優さんとして、どのようなご感想をお持ちになるのか、是非お伺いしたいです！

福原

はい（笑）！

―― 一同視聴 ――

張

まさに、「バルサミコ酢」の場面です（笑）。福原さん、如何でしたでしょうか？ つかさが韓国語をしゃべっている様子……

福原

韓国の声優さん、結構私の「つかさ」の感じに寄せてきてますね！ 嬉しいです！ 「バルサミコ酢〜」の言い方も似てて笑いました(笑)。なんか、すごく嬉しかったです！

「つかさ」というキャラクターや『らき☆すた』という作品は、もちろん、私だけのものではないので、別の方がつかさ役で、しかも違う言語を喋っているのは、とても興味深いです。それに、オリジナルに結構寄せてきてるんですよね。日本語版、すごく見てくれたんだな、って感じました。

例えば「バルサミコ酢」みたいなネタが、韓国で普通にお笑いとして受け止められたとしても、他に「ヒロシ」ネタのような日本の芸人さんのネタとか、結構ローカルなジョークを作品に取り入れていたので、それが韓国とかそれ以外の国とかでは、どういうふうに映っていたのかな。ちょっと気になるところではありますね。

関西弁は釜山方言に置き換えられることが多いんです……

張

そういう日本ローカルなネタは、吹き替えの際に結構ローカライズされることが多いですよね。ネタ自体がその国で通じるものに変えられることが多いんです。

福原

へー！ 面白い！ 気になる！ 結構日本のギャグを入れていたので。

山村

確かに『らき☆すた』は小ネタがたくさん入れ込まれてますもんね（笑）。

福原

そうなんですよ。「何か面白い事をやれ」という空気感が強い現場で（笑）。私達キャストが必死に考えた結果ですよ（笑）。

ありがとうございます、見せていただいて。初めて見ました！

小新井

コンテンツの「国際比較」は私の研究テーマのひとつでもあるので、ぜひそうした点についても、声優さんご本人を交えて今後議論できたら嬉しいです。例えば、黒井先生の関西弁は、英語版や韓国語版ではどのように表現されているのか、ですとか、すごく興味深いテーマです。「声」にフォーカスした研究会を継続開催して、さらに掘り下げていけたら嬉しいです！

福原

やりましょう、是非！

張

面白いですよね。韓国語吹き替えで、関西弁は釜山方言に置き換えられることが多いんです。釜山は港町で韓国の南にありますが、その方言が関西弁に対応するというのは興味深いです。逆に、韓国ドラマの日本語吹き替えを行う場合、ソウルの言葉は日本の標準語で表現されることが多い一方で、韓国の方言が使われるシーンでは、日本語では関西弁になるという構図なんですね。こういう文化や言語の違いが、作品の翻訳や表現でどう反映されているのかを考えていくのは、とても興味深いですね。

山村

東京と大阪の文化的・社会的関係性を、ソウルとプサンにあてはめる、その逆も然り、という感じでしょうか？

張

はい、そんな感じです。

福原

面白い！

オリジナル音声重視の傾向が強まったように感じます……

張

アニメ作品における声の重要性は、海外のファンからも高まっている気がします。確かに昔は、海外で日本のアニメを消費する際には吹替版が一般的で、声については「母国語で聞く」という感じでした。でも今は、海外のファンの間でも、日本のアニメをオリジナル音声で消費することが重要視されています。オリジナルの声の重要性をファンも理解している

んだと思います。オリジナルの声とキャラクターは一体で消費する、ということかと。

山村

2010 年前後、ネットでの動画配信が普及する中で、ファンが字幕を付ける文化が一気に広まったころから、そうしたオリジナル音声重視の傾向が強まったように感じます。中国での字幕組の活動とか、その典型例ですよね。そして、オリジナル音声での消費が普通になればなるほど、結果的に日本の声優さんの海外での知名度や人気も高まる……。

小新井

英語圏でもそうでしたよね。ファンサブ。

張

ジャンルにもよると思う。児童向けの番組は吹き替え。深夜アニメはオリジナル音声＋字幕で消費することが多いように思います。

3. 「国境を超える声のお仕事」の可能性と課題

ある意味もう海外で仕事しているようなものですよね（笑）

島田

先ほど吹き替えの話の中で、張さんから、韓国でも、アニメを見る際には、オリジナル音声で見ることが定着しているという話がありました。私の知り合いの留学生の方も、「現地語の吹き替え版より、日本語オリジナルの方がしっくりくる」と語っていました。こんな声を聴くと、今まで以上に、海外でお仕事されたくなりませんか？　国境を越えるお仕事の今後について、福原さんとしてはどういったお考えをお持ちでしょう？

福原

海外イベントなど、単発のお仕事は今までどおり、大いにアリだと思いますが、例えば海外に移住して現地で声優として活躍していく、などといった新たな道はイメージがわきませんね。タレントとかなら言葉の壁などはもしかしたらパッションで乗り越えられるかもですし、たどたどしくてもそれが味になったりするかもですが、声優という、言葉をデリケートに扱う職業はやはり言葉の壁があると思います。

また、アフレコのやりかた（３本のマイクに２０人くらいのキャストが入れ替わり立ち代

わり入る）も日本特有のもので、これによって掛け合い台詞のリアルさなどが出ています。海外では１人ずつ収録していると聞いた事があるので、そういった日本特有の文化が海外では難しい所もあるかと思います。

でも、あえてそうした日本のアニメ文化を無理に海外に持ち込まず、日本ならではの良さにしておくのも素敵だな、と個人的には思っています。

張

海外のゲームコンテンツですと、メインの音声言語を日本語にして、自国語の字幕を入れるパターンもあるそうです。アニメもそうなのですが、日本語をそのままコンテンツの一部として海外でも消費していくことが一般化すれば、日本語を使って海外で仕事をする、という可能性もあるのでは、と思いますが、如何でしょう？

福原

私がかかわっているゲームでも、日本で収録した声がそのまま海外で使われたりしています。自分自身は日本にいるのであまり実感はないですが、ある意味もう海外で仕事しているようなものですよね（笑）。わざわざ現地で収録する必要性も特にないので、今のまま「声だけ輸出」スタイルが一番双方にとって負担が軽い気がします！

山村

福原さん、最近は『グランブルーファンタジー』のソフィア役など、ゲームでのキャラクターボイスでも活躍されていらっしゃいますよね。

板倉

はい。今やゲームは「世界」で消費されていますよね。最初は日本だけでゲームが公開されることが多いんですが、日本で人気が出た作品は、オリジナル音声のままで海外公開されることが多いですね。

英語が話せることも素敵なことですが、それと同じくらい日本語の素晴らしさも広めていけたらいいですよね。

山村

そうなんですよね、最近のゲームでは、日本語音声を敢えてそのまま海外で消費するスタイルが増えてきていますよね。日本語の声優さんの声とセリフをそのまま「資源」というか「商品」として楽しむような形。これは、吹き替えとは真逆の発想で、ある意味、声の消費としては理想の形、というかあるべき姿かな、と感じています。

観光の現場では、何かにつけてすぐに「多言語化が重要」という話になるのですが、私はその一方で、日本語の表現の豊かさや響きの美しさをそのまま楽しんでもらうことこそ、重要な観光資源なのではないかとも思っています。例えば、日本の観光地の PR ビデオを海外向けに作る際、最初から英語で作るという発想は、私は間違っているように思っていて、まずはしっかりとした美しい日本語で制作し、日本語の持つ表現の豊かさをまず音で楽しんでいただき、そのうえで多言語対応した字幕で意味を理解してもらう、というのが正しい姿なのではないかと。日本語の美しさも含めた「日本の魅力」がより自然に伝わるのではないかと思うんです。視覚だけでなく聴覚も含めた魅力。

そう考えると、声優さんの美しい日本語は、とても重要な PR 資源、観光資源になるように思います。国際化すればするほど、英語ではなくて日本語の重要性が増すのでは、と。「声」を活用した国際的な展開には、まだまだ可能性があるように感じるのです。福原さんはこのあたり、何か感じられていることはありますか？

福原

わかります！　私も日本語での PR ビデオは大賛成です。

先日、3 歳の息子と一緒に雨を見ながら「雨の音がザーザーだね、音が大きいね」って、ちょっとネガティブな感じで私が言うと「でも僕は、雨がぽつぽつ降っている時の音、好きだよ！」なんてポジティブな返事が返ってきて。３歳の子供が雨の降り方のニュアンス（ザーザー、ぽつぽつ、ぱらぱら、じゃーじゃーなど色々あると思いますが）をしっかり捉えていて、ちょっと感動したんですよね。私が日本語を大切にしてきて、それが息子にも伝わっていてよかったと思った出来事です。

日本語の持つ美しさや奥深さを私たちは大事に受け継いでいきたいし、もっと海外の方にも知ってほしいなと思います。だから、日本語の音声に字幕を付けるだけで魅力を伝える、という方法には本当に大賛成です。

これからのコンテンツの国際的な展開を考える上で、こうした視点をもっと活かせるといいなと思っています。

（第２部おわり）

アニメツーリズムのこれまでとこれから　第２部：
声優・福原香織さんと考える「世界に広がる声のお仕事」（座談会録）

登壇者：

福原香織（株式会社ブライトイデア・声優）
板倉篤史（株式会社ブライトイデア・チーフマネージャー）
山村高淑（北海道大学・教授）
島田邦弘（埼玉県上里町・副町長）
張慶在　（広島大学・准教授）
小新井涼（アニメコラムニスト）

編者：

山村高淑
板倉篤史

2025 年 3 月 31 日　発行

発行：北海道大学観光学高等研究センター
〒060-0817
北海道札幌市北区北 17 条西 8 丁目
TEL 011-706-5382